

神戸大：前期は微減、後期は微増でいずれも前年度並

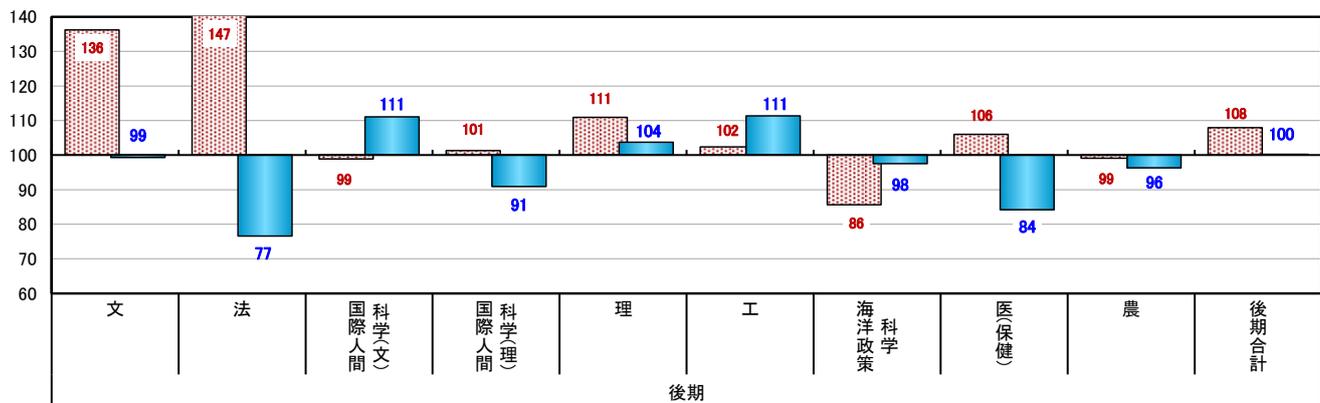
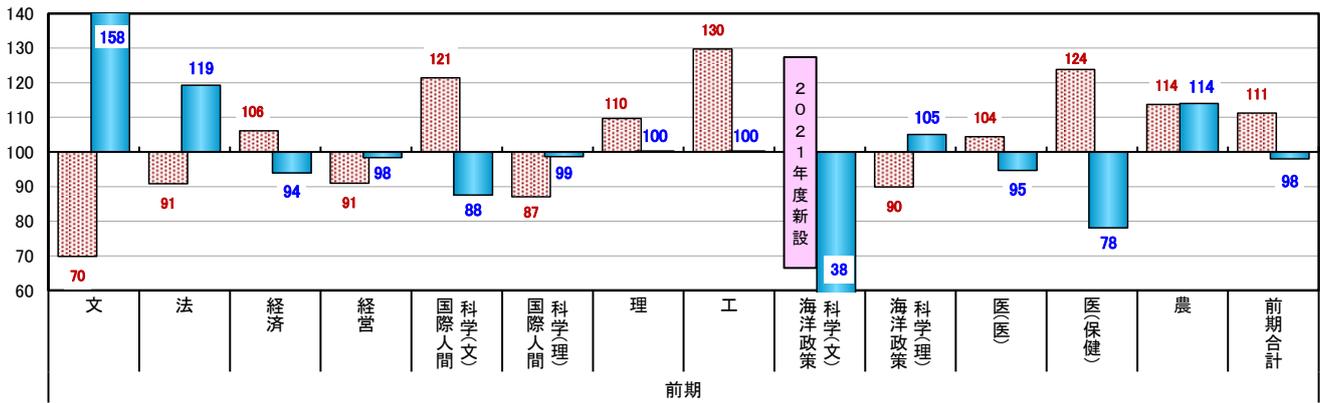
前期：-123人 後期：+10人

※前年度の志願者数を100とする指数

海洋政策科学(理)、海洋政策科学の2021/2020年度指数は、前年度海事科学との比較

□2021年度/2020年度

■2022年度/2021年度



主な入試変更点

募集人員：工(市民工)…<前>46人→49人、<後>15人→12人  
 共通テスト：理(数学)<前>…国<125>+歴公<75>+数2<50>+理2<50>+外<75>=総点<375>  
 →国<125>+歴公<50>+数2<60>+理2<50>+外<75>=総点<360>  
 <後>…国<125>+歴公<75>+数2<50>+理2<200>+外<75>=総点<525>  
 →国<125>+歴公<50>+数2<60>+理2<200>+外<75>=総点<510>  
 理(物理)<前>…国<125>+歴公<75>+数2<50>+理2<100>+外<75>=総点<425>  
 →国<75>+歴公<50>+数2<100>+理2<100>+外<100>=総点<425>  
 個別試験：理(数学)<前>…数<150>+理2<150>+外<125>=総点<425>  
 →数<180>+理2<150>+外<125>=総点<455>  
 <後>…数<150>+外<125>=総点<275>→数<180>+外<125>=総点<305>

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は123人(98)で前年度並。文理別では、文系は92人(97)のやや減少、理系は前年度大幅増加の反動はなく31人(99)の微減に留まった。後期も前年度増加の反動はなく10人(100)の微増で前年度並。文理別では、文系は77人(95)のやや減少、理系は87人(103)のやや増加で3年連続増加。

<前期日程>

- 文(158)は、前年度大幅減少の反動で50%以上の大幅増加。志願者数は250人を上回った。
- 法(119)は、前年度減少の反動に加え、系統への高い人気から大幅増加。
- 経済(94)は、やや減少。方式別では、(数学)(203)は前年度30%以上大幅減少の反動で倍増。一方で、募集人員が160人と最大の(総合)(88)は減少。
- 経営(98)は、微減で2年連続減少。
- 国際人間科学(89)は、減少で前年度の反動による増減が継続。募集単位別では、(グローバル文化)(112)は増加、(子ども教育)(104)はやや増加だが、他の3つの募集単位は減少。特に、(発達コミュニティ)(57)の大幅減少が目立った。
- 理(100)は、3年連続増加の反動はなく前年度並。学科別では、(惑星)(155)は、前年度大幅減少の反動が大きく50%以上の大幅増加。共通テスト、個別試験ともに数学の配点が高くなった(数学)(110)は増加。一方、(物理)(68)は大幅減少、(化学)(88)は減少で、いずれも前年度と対照的。
- 工(100)は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。学科別では、6学科中3学科で大幅増加。(応用化学)(133)は大幅増加で2年連続増加。(市民工)(128)は大幅増加で3年連続増加、募集人員も増加(募集人員の前年度対比指数107)したが、志願倍率は3.4倍→4.1倍と2017年度入試以来の高倍率で、競争はさらに激化。一方、(機械工)(74)、(情報知能工)(85)は前年度激増の反動で大幅減少。
- 海洋政策科学(84)は、大幅減少。(理系科目重視)(105)はやや増加。新設2年目の(文系科目重点)(38)は、前年度の高倍率も影響し激減。

- 医(医) (95)**は、前年度3年連続減少からやや増加に転じたが再び減少し、やや減少。共通テスト360点：個別試験450点と比較的共通テストの比重が高く、共通テストの難化も影響した。
- 医(保健) (78)**は、前年度大幅増加の反動から大幅減少。専攻別では、理学療法(114)以外の3専攻はいずれも大幅減少。(保健／検査技術科学)(62)、(作業療法)(63)は、40%近い大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。
- 農(114)**は、前年度増加の反動はなく、2年連続増加。学科・コース別では、6つの募集単位全てで増加。特に、(生命機能科学／応用機能生物)(176)は激増、(食料環境システム／食料環境経済)(128)、(食料環境システム／生産環境工)(118)は、前年度大幅増加した反動はなくいずれも2年連続大幅増加。

＜後期日程＞

- 文(99)**は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。
- 法(77)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 国際人間科学(109)**は、増加。募集単位別では、唯一減少の(環境共生(理科系))(91)を除いて、他の4つの募集単位はいずれも増加。(子ども教育)(130)は2年連続大幅増加、(発達コミュニティ)(124)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(環境共生(文科系))(115)は大幅増加で、3年連続増加。
- 理(104)**は、やや増加。学科別では、(化学)(125)は大幅増加で2年連続増加、(惑星)(113)は3年連続減少の反動で増加。一方で、(生物)(78)は大幅減少で2年連続減少、志願者数は30人を下回った。
- 工(111)**は、増加で2年連続増加。学科別では、(市民工)(157)は、前年度大幅減少の反動による大幅増加に加え、募集人員も減少(募集人員の前年度対比指数80)で、志願倍率は6.6倍→12.9倍と競争は激化。(情報知能工)(110)は2年連続増加。一方で、(建築)(95)はやや減少。
- 医(保健) (84)**は、大幅減少。専攻別では、(保健／検査技術科学)(76)は前年度大幅増加の反動が大きく大幅減少、(保健／理学療法)(89)は減少。
- 農(96)**は、やや減少。学科・コース別では、(資源生命科学／応用植物)(120)が大幅増加。(食料環境システム／生産環境工)(109)は増加で、前年度の反動による増減が継続、(食料環境システム／食料環境経済)(107)はやや増加で2年連続増加。一方、(生命機能科学／応用機能生物)(78)は大幅減少で、2年連続減少。